

埼玉トヨペット Green Brave



2021 RACE REPORT

AUTOBACS SUPER GT Round 5

SUGO GT 300km RACE

2021年9月11日(土) ~12日(日)

スポーツランドSUGO(宮城県村田町)

#52 埼玉トヨペット GB GR スーブラ GT

■■■■ 12位でチェッカーを受けるも SC 中のペナルティにより 21位 ■■■■

GT300のエントリー台数は28台。ドライバーは吉田選手と復帰の川合選手です。予選日の天候は曇。9時20分から行われた公式練習では、吉田選手が最初にコースイン。ピットインを繰り返しながら硬さの異なるタイヤを試し、川合選手も続きます。ベストタイムは吉田選手が19周目にマークした1分19秒227(14位)。GR スーブラ GTには前戦と同じ66kgのサクセスウェイトが搭載されていますが、SUGOとの相性はまずまずのよう。

Q1(予選)のドライバーは吉田選手。チームは公式練習の結果をふまえ、決勝を重視したタイヤを選択。Q2進出はマストで、吉田選手のアタックに期待が高まります。ところが予選開始直前にマシントラブルが判明。メカニック総出で修理を行い、スタート2分前に終了しましたが、不安を抱えた中での予選に。吉田選手は予選開始の合図とともにコースイン。GR スーブラ GTに問題はなく、1回目のアタックで1分18秒654をマーク。Q1突破圏内につけますが、Q2進出を確実なものにするためにアタックを継続します。吉田選手は限界ぎりぎりの走りを見せ、区間ベストを更新するも、最終コーナーで外側にはみ出してしまいコースアウト。すぐにコースに復帰したもののタイムを更新できず、Q1敗退。悔しい予選23位となりました。

決勝日の天候は晴れ。チームはスタートドライバーに川合選手を起用。ピットの時間を短縮できるFCY(フルコースイエロー)やSC(セーフティカー)のタイミングを待ち、ピットインを遅らせる作戦をとります。予定より1周多い、3周のフォーメーションラップの後、レースはスタート。川合選手はポジションを1つ下げ、24位でオープニングラップを終了。序盤こそ前のクルマを抜くのに時間がかかりましたが、6周目に23位に上がると順調にポジションを上げていきます。ライバルがピットに入り始めても淡々と周回を続け、41周目終了時にトップへ。レースはすでに半分が経過しています。ところが44周目、GT500車両が出火しコースサイドにストップ。すぐにSCが導入されます。あまりに突然だったため、川合選手はピットに入ることができず、ピットレーンはクローズに。隊列走行の後、ホームストレート上でGT500とGT300に分けられ、52周目からレース再開。後続との間に築いたマージンはなくなり、非常に厳しい展開です。川合選手は翌周にピットイン。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行いピットアウトします。再スタートにやや時間がかかったものの、コースに復帰した吉田選手の順位は17位。吉田選手は毎周のようにベストラップを更新する走りを見せ、ライバルを次々とパス。決勝重視のタイヤ選択も功を奏しています。5台抜きを見せ、入賞まであと2つの12位でチェッカー。しかしレース後、SC中の車両整列時に違反があったと判定され、130秒加算のペナルティが課されることに。正式結果は無念の21位。後方からジャンプアップするために賭けに出たチームですが、今季3回目の入賞は果たせず。チームランキングは10位に後退し、チャンピオン獲得に向けて、ひとつも落とせない状況になりました。

決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット

Green Brave GR スーブラ GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝：21位

(77周、1時間59分11秒059)

予選：23位

(Q1B組12位、1分18秒654)

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	SUBARU BRZ R&D SPORT (スバル BRZ GT300)	78
2位	ARTA NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	78
3位	リアライズ日産自動車大学校 GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	78
4位	グランシード ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	78
5位	SYNTIUM LMcorsa GR Supra GT (トヨタ GR スーブラ GT)	78
6位	Yogibo NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	78
21位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR スーブラ GT)	77

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで(出走28台)



DRIVERS VOICE

吉田広樹選手



(予選後) ミスがありました。それがなくてもQ1を通ったかどうかギリギリでした。ベストを尽くしたところまで持っていかなければならなかった。まとめきれず残念です。公式練習の時から最終コーナーでああいう動きがあるのはわかっていたのですが、ニュータイヤのグリップがあれば大丈夫と思ってチャレンジした結果です。結果には納得していませんが、いかなければいけないと思っていたので難しいですね。荒れたレースになるかもしれないので、SCやFCYのタイミングをうまくひろって、ポイント圏内に上がってほしいと思います。

(決勝後) ピットでの再スタート時にマシンの不具合があったのですが、チーフエンジニアの近藤さんの的確なアドバイスをくれました。うまく対応でき、5、6秒のロスでピットアウトしました。アウトラップはタイヤが冷えているのできつくて、後ろをおさえきれずに抜かれていたのですが、熱が入ってからは、ブリヂストンタイヤの強みが活かされました。上位のクルマとペースの差は結構あったので、うまく順位を上げられたと思います。次戦オートポリスでも十分戦えると思うので、予選のミスを繰り返さないようにしたいと思います。

川合孝汰選手



(決勝後) 前戦、新型コロナウイルスにかかってしまい、チームメイト吉田さんはもちろん、チームやレースに携わるすべての人にご迷惑をおかけしてしまいました。これからの流れをどうにか後半戦、チャンピオンに向けていきたいと思っています。

今回の決勝、自分の中で目標を決めていて、15番手ぐらいで吉田選手にクルマを渡したいと思っていたのと、ドライバー交代でミスをしないうちと思っていました。そこだけに集中して走っていました。



チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	61	R&D SPORT	51
2位	56	KONDO RACING	51
3位	244	Max Racing	51
4位	60	LM corsa	44
5位	55	ARTA	42
6位	65	K2 R&D LEON RACING	40
10位	52	埼玉トヨペット Green Brave	35

トップ6まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 Team Iwakiri Japan



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



トヨタモビリティパーツ株式会社



株式会社ドーム



株式会社デイトナ・インターナショナル



株式会社ハッピーライフ彩生

※50音順

【次戦予告】 第6戦 10月23日~24日 オートポリス (大分県日田市)